



ボランティアをしたい人と、してほしい人をつなぐ

浜松ボラセンだより

15号
2022.12

発行 / 社会福祉法人 浜松市社会福祉協議会 ボランティアセンター

浜松市ささえあいポイント事業 「交流研修会」開催 ～ボランティア登録者同士の交流の場として～

コロナ禍でボランティア活動ができにくい状況の中ですが、ボランティア登録されたみなさんが集まり、活動報告や講義を聞いて、今後のボランティア活動への意欲化を図る機会となりました。

浜北会場	浜北文化センター 大会議室	10月6日(木)
可美会場	可美公園総合センター ホール	11月10日(木)



■ 活動報告 … 二胡演奏「メイリ・ロウシェン」さん

施設やサロンから依頼があると、出向いて行って利用者さんに演奏を披露しています。その演奏を研修会で聞かせていただきました。

- 「女子十二楽坊」の演奏を聴いて興味を持ち、音楽教室に通うようになった。弦が2本なので簡単なのかと思ったが、そう簡単ではなかった。積志地区に同じように二胡の演奏をする仲間がいたので、一緒に練習したり、ボランティアで施設等に行って演奏したりするようになった。
- 新型コロナの感染拡大で、老人施設でのボランティア活動ができないでいる。健康な方のサロンやプレ葉ウォークでの演奏した時には、好評だった。「演奏してほしい」という要望があれば、声を掛けてほしい。

■ 講義 「ボランティアで素敵にセカンドライフ

～開きあってつながる、新たな世界～

講師 大阪ボランティア協会 事務局主幹 青山 織衣 氏

- 人は、居場所と出番が大切。家庭でも職場でもない、とびっきり居心地のよい場所をサードプレイスと言う。ボランティア活動の場は、ここに当たる。人との



出会いが新たな発見や学びを生んだり、仲間と触れ合うことで孤独感を解消できたりするなど、プラスの側面がたくさんある。

- ボランティアは、自分の好きなこと、興味のあること、自分が楽しいと思えることに取り組むようにするとよい。ボランティアは自由で多彩でよい。包丁とぎのボランティアをしている人もいる。若い人たちには、土に触れる農園ボランティアが人気である。将来の夢につながった例もある。

楽しくボランティア活動をして、健康に、長生きを

10月17日（月）に「ボランティア講演会」が開催され、「あなたにとって、ボランティア活動は…？」と題して、共育ひろば主宰 牧岡 英夫 氏から次のような話がありました。

- 二人で目を閉じてお互いに持った鉛筆の先を付けるには、鉛筆の先を合わせようと押すだけではうまくいかない。鉛筆を押ししたり引いたりしながら、お互いに鉛筆の先を探る。特に、「引く」ことが大切。ボランティア活動での相手（利用者）とのかかわり方も同じことが言える。



- 「きく」という漢字は「聞く」「聴く」「利く」「効く」「訊く」とある。同じように「みる」も「見る」「看る」「観る」「診る」とある。ボランティアは、「聞く」「聴く」「見る」でいい。

それ以外は、専門職の力を借りたり、協働したりすることが大切。

- 世代内交流をしている人は、交流をしていない人より精神的に健康であり、世代間交流をしている人はさらに健康度が高い。